Ⅱ．中学２年生の評価の実際

鈴木一悠

評価を実際に行うに当たり、学年団の立てた方針は
1．学年団の立てた評価観点にしたがって
2．生徒相互評価・生徒自己評価・教師評価が入るように
3．客観的素材（生徒が１年間の総合人間科学習の中で書いたものなど）に基づいて
評価する　であった。

１の学年団の立てた評価観点とは①個人テーマを自分で設定できたか②研究を深めることができたか③研究結果をよく発表できたか④他の発表をよく理解できたか⑤討論に参加できたかであった。また本校が総合人間科評価観点としてまとめたものは、Ⅰ「知的関心の形成と問題解決能力」Ⅱ「体験・コミュニケーション能力」Ⅲ「創造的表現能力」Ⅳ「総合的思考力と実践能力」であった。学年団の立てた評価観点と、本校が総合人間科評価観点としてまとめたものとは、①、②がⅠに、③がⅢに、④、⑤がⅡに対応すると考えている。

３の客観的素材としては、個人研究レポート、研究集録原稿、個人発表の際に用いた評価表、討論の素材とした身近かな環境問題についての各自の考えまとめ　等がある。個人発表の際に用いた評価表は次のようなものであった。

'96年度中２総合人間科研究発表評価表

発表日時	月　日（　曜日）第　限	評価者	組　番　氏名			
発表者	［　組］※あてはまる方に○（　本人　他者）					
研究題目						
評価	研究内容（内容・考察がしっかりしているか）	A	B	C	D	
	まとめ方（資料がわかりやすくまとめてあるか）	A	B	C	D	
	発表の仕方（わかりやすく発表できたか）	A	B	C	D	
	総合評価（研究内容・まとめ方・発表の仕方を総合して）	A	B	C	D	
コメント						

上記学年団の方針を具体化したものが、下表である。同表では、上記１、２、３ができるだけ入るように、必要最小限な項目立てをしてある。中学２年では、総合人間科学習の中心であった個人研究、野外学習に関わる学習を、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ４グループに分かれて行い、担任団も分散して指導に当たった。そこで、同表による評価も担任団４名が各自の受け持ったグループ員について行うことにした。各項目の評価はＡ、Ｂ、Ｃによって行い、それらを総合して、生徒１人１人の評価とする。

氏　名	個人研究レポート・集録原稿			発　表		
	相互評価	自己評価	教師評価	相互評価	自己評価	教師評価

討　論			総　合
相互評価	自己評価	教師評価	

注　討論における相互評価、自己評価については、今回は実施するに到らなかった。